

伝え合う力を高める学習指導の追求

端 名 秀 雄

国語科 橋 本 正 恵

石 田 明 美

1. テーマ設定にあたって

本校国語科では、平成14年度から「伝え合う力を高める学習指導の追求」をテーマとして、研究・実践を行ってきた。

現行の学習指導要領国語科のキーワードの一つである「伝え合う力」の育成を継続して実施してきたわけであるが、日頃の授業等から生徒の様子を振り返ってみると、一斉授業の中での教師の問いかけに対して積極的に挙手・発言する生徒が存在する一方で、自分の意見を持ちながらも発言することが苦手な生徒もいる。ただし、教師側が指名して発言を促すと、ほとんどの生徒が何らかの形で発言できるというのが本校の実態である。

発言するときの声の大きさや話す速度といった基本的な要素だけではなく、内容的にも個人差があり、理由や根拠をきちんと説明したり、他人の意見につなげたりして自分の意見を述べる生徒から、ほとんど単語だけで済ませるといった生徒まで様々である。

生徒どうしの交流の場面を見ると、例えば授業での作品の感想や作文などをお互いに発表しあったり回し読みしたりする活動には意欲的に取り組み、自分と比較しながらお互いの良いところを見つけ、刺激しあうようになってきている。そして、良いものに対しては自然に賞賛の声が上がり、他から学ぼうとする姿勢は強く感じられる。

その一方で、前述のように理由や根拠をきちんとあげて自分の意見を説明したり、相手に反論したりすることなど、いわゆる論理的な意見の交換といった点にはまだまだ物足りなさを感じる。

このような生徒達の実態をふまえ、より積極的にコミュニケーションをとろうとする場の設定が必要であり、そのための方法として、異学年や異校種間交流という授業形態も有効であろうと考えた。

今年度の本校の研究主題「共に学ぶ生徒の育成を目指して」を受けて、国語科では「伝え合う力を高める」研究・実践を中心に据えていくことが必要であると認識し、平成20年度も上記のテーマを継続することとした。そのために、1年生に関しては、まずは同学年間でのコミュニケーションを重視することとした。また、2・3年生に関しては、昨年度も取り組んだ異学年交流、さらには異校種間の交流授業を取り入れながら研究・実践を進めていこうと考えた。

2. 異学年・異校種間交流授業のねらいと位置づけ

昨年度は、「異学年・異校種間交流授業を通した学び」という学校研究の副題のもとで、3つの学年間で異学年交流授業を実施した。異学年交流を実施するにあたって、国語科という教科の特質ともいえる履修・未履修事項の境界の不明確さゆえ、交流授業でみられる学年間の差異が、発達段階によるものなのか、単に個人の感性や知的レベルによるものなのかが見極めにくいという問題点があった。

そのため、授業で取り上げる課題としては、発達段階による差が顕著に表れそうなものを意図的に組み入れるなどの工夫をした。また、どんな題材においても、「なぜそうなったのか」、「なぜそう思うか」など、根拠を明確にして述べさせることも意識した。

限られたクラス、回数という制約もあったが、異学年どうしのこのような活動を通して、本校研究の作業仮説である「上級生と下級生による学びの交流が行われ、学習内容の深化、学び方の習得の促進、コミュ

コミュニケーション力の育成が期待できる」に多少なりとも迫れたのではないかと考えている。

学年の差が大きい方が交流の成果があがりやすかったという異学年での実践の状況をふまえて、昨年度の後半から、高校生との異校種間交流も実施してみることにした。

3. 異校種間交流授業の実践内容

異学年交流に取り組んだあと、さらに発達段階の差が大きい小学校や高等学校との異校種間交流ができないかと模索した。話し合いを進める中で、交流授業に意欲的な高等学校と実践をしてみようということになり、最初の段階として、中学校2年生の1クラス(40名)と高校2年生1クラス(40名)の異校種間交流授業を試みた。中学生20名と高校生20名で1クラスと考え、中学校と高等学校の教師1名ずつが同じ指導案で隣り合わせのクラスで実施した。

どんな題材が適しているか、何度も協議を重ね、3学年という差を生かして読書教材を取り上げることにした。中学校2年生という時期は部活動に時間が割かれることが多く、日々読書に親しんでいる生徒はそれほど多くない。読書経験も様々で、何を読んだらいいかわからずほとんど本に触れていない者から自分の好きなジャンルのみ読んでいる者、積極的に読書分野を広げようとしている者まで個人による差が大きい。個人差が大きいことは高校生も同じ傾向にあるようだが、国語の授業で読書紹介のスピーチを行う授業に取り組み、お互い良い影響を与え合ったそうである。そこで、高校生は中学生という下級生に読書のアドバイスをを行うことで自分の経験を生かし、中学生はあこがれの高校生に読書に関する質問に答えてもらったりお薦めの本を紹介してもらったりすることで、読書の世界を広げられないかと考えた。

まず、中学生が「読書郵便」という形で、自己紹介やこれまでの読書生活、読書に関する質問、お薦めの本とその感想(800字程度)などをまとめて高校生に送った。次に、高校生それぞれが興味を持った読書郵便を選び(なるべく1対1の対応になるよう高校側の配慮があった)、質問に対する返事や今後読んだら良い本を800字程度の文章(読書郵便への返事)にまとめる作業を行った。

実際に顔を合わせての交流授業は1時間で、6～8名(中学生3～4名、高校生3～4名)の異校種混合のグループ活動を中心とした。グループは中学校側が話し合いが活発になるように考えて編成した。グループ活動では、事前に書いた読書郵便(への返事)をもとに、グループ内で意見交換を行った。また、授業の導入段階では、教師がそれぞれの学生時代の読書体験を紹介し、グループ活動の後、最後に全体の場で代表の高校生がブックトークをして終わった。

4. 成果や課題

中学生は読書を通して高校生と交流授業を行うということに初めとまどいを見せたが、その準備段階の「読書郵便」を書くという活動には、どの生徒も意欲的に取り組んでいた。異学年交流授業は経験しているが、3学年離れた高校生が相手なので、かなり緊張しながらもあこがれの先輩との交流を楽しみにしているようであった。交流授業を終えての感想を見ると、9割の生徒が楽しかったと答え、全員の生徒が高校生から何かを学んだと答えた。1番多かったのが、高校生のコミュニケーション力である。分かりやすく伝えるための話し方や発表の仕方、そして自分たちが話しやすいようにしっかりと聴いてくれたことに感動したようである。読書に関することは2番目であった。中学生は高校生の「自己表現力」と「他者理解力」に触れ、「伝え合う」にはどうすればよいかを学んだのである。この交流を通して、高校生に勧められた本を早速読む生徒も出てきて、高校生からの影響は予想以上に大きかった。

異校種間交流授業をすべてのクラスで行うのは時間的にも無理であり、選択の授業で実践していくのが最良であると思われる。高校生がもっとリーダーシップを発揮して学習活動を進められるように、読書を題材として、さらに発展した活動内容を考えていきたいと考えている。

【実践例Ⅰ】1年生

わかりやすく伝えよう1（言葉の意味をわかりやすく伝えよう）

1. 指導にあたって

本校で使用している教科書（光村図書）1年生の「わかりやすく説明しよう 情報を選ぶ」という単元で、内容をアレンジして文章でわかりやすく表現するための活動を行った。この単元では、必要な情報を選び、整理して伝えることを学習し、実際に題材を選んで書くことになっている。

題材例もいくつか挙げてあるが、生徒の実態をふまえ、以下のように取り組ませることにした。

生徒達には入学当初から、授業中には国語辞典と漢和辞典を手元に置かせるようにしている。ほとんどの生徒達は一般向けの辞典を使用しており、（中学生向けは掲載語彙数が少ないので、あえて一般向けを推奨しているということも理由の一つであるが。）ある言葉の意味を調べさせても、その記述の中に意味のわからない言葉が含まれていたりすると、さらにその言葉の意味を確認しているということがよくある。

そこで、辞典に載っている意味をふまえたうえで、その言葉の意味をもっとわかりやすく表現する工夫をさせてみた。

取り上げる言葉は自由としたが、形のあるもの（具象的なもの）を一つと、形のないもの（抽象的なもの）を一つ考えさせた。例を挙げるとそれにとらわれてしまう生徒が多いので、教師からの例は一例ずつとした。その言葉本来の意味を変えてしまうようなことはしないこと、表現の方法として、なるべく自分の体験などを盛り込むようにということも補足した。

できあがったものをクラス全員の前で紹介し、何という言葉かをクイズ形式で考えさせた。

2. 目標

- ・言葉の意味を、自分の体験などを交えて、クラスメートにもわかるように文章で表現できる。
- ・文章で表現された言葉の意味を聞いて、何という言葉かを想像することができる。

3. 指導計画（全3時間）

国語辞典を引きながら、自分を取りあげたい言葉を探す。……………1時限

辞典の説明をふまえながら、オリジナルの解説を書く。……………1時限

できあがった作品を紹介し、言葉を考えさせる。……………1時限

生徒の作品例

☆消しゴム…えんぴつなどで書いたあとをこすって消すのに使うゴム。（三省堂 新明解国語辞典）

★消しゴム…えんぴつやシャーペンなどで書いたものをこすって消すためのゴム。小中学生は消したあとに出たかすを投げ合ったりする。（生徒作）

☆定規…直線を引いたりするためにあてがう用具。物事を判断する基準。（三省堂 新明解国語辞典）

★定規…筆記用具の一つ。主に直線を引くために使われたり、物の長さを測るために使われる。数学のテストでは、必要な物としてテスト中机の上にあることが多い。昔は竹が多かったが、今ではプラスチックになってきている。（生徒作）

☆うちわ…手に持って、あおいで風を起こす道具。ふつう、細い竹の骨に、紙・布を張って柄を付け、円形または卵形。(三省堂 新明解国語辞典)

★うちわ…主に夏の暑いときに、自分に風を送る道具。また、その代わりにせんす、学校では下敷きも使っている。いろいろな柄、形があり、夏は絶対必要である。また、それに好きな芸能人の写真をはったり、店の宣伝などにも使う。(生徒作)

☆夢…夜などで寝たときに見たもの。また、将来実現したいと思っている事柄。(旺文社 国語辞典)

★夢…夜寝たときに現実のように見えるもので、予測不可能。朝起きたときに見たことを忘れてしまったりもする。また、将来自分がしたい仕事やしてみたいと思う大きなこと。(生徒作)

☆救急車…疾病者の急場の手当に使われる車。(三省堂 新明解国語辞典)

★救急車…急に病気になった人やけが人などを運ぶための自動車のこと。最近タクシー代わりや子供が泣きやまないからなど、気軽に利用するものが多いという問題点がある。(生徒作)

☆青春…夢・野心に満ち、疲れを知らぬ若い時代。主として十代の後半から二十代までの時期を指すことが多い。(三省堂 新明解国語辞典)

★青春…特に中学生から二十歳前後にある。合唱コンクールや運動会でクラスの団結力を味わったり、恋したり、部活をして汗をたくさんかいてめいっぱい楽しむ時。(生徒作)

☆しつこい…味などが濃すぎて、いつまでもあとに残る感じ。どこまでもつきまとう様子。

(三省堂 新明解国語辞典)

★しつこい…味が濃い時に思うこと。また、テストの点や秘密を何度も聞く人のことをこのような人という。(生徒作)

☆くやしい…勝負に負けたり、物事が思い通りにいかなかったり、辱めを受けたりして、腹立たしく残念である。(旺文社 国語辞典)

★くやしい…運動会などでよくその気持ちが生まれる。そして、顔が赤くなったりするという変化がある。その後、もっと頑張ろうという気持ちになる。(生徒作)

☆嫉妬…自分より恵まれていたり優れていたりする者をうらやみねたむこと。また、自分の愛する者の愛情が他へ向くのをうらみ憎むこと。やきもち。(旺文社 国語辞典)

★嫉妬…昼ドラなどで、女性が自分より恵まれていたり優れていたりする他の女性をうらむケースが多い。その憎しみから殺人に発展することもしばしばある。イメージとして、二十代後半から五十代ぐらいの女性がする感じがある。(生徒作)

☆時間…空間と共に、種々の現象が生起する舞台であるが、空間と異なり時間は一つの方向にわれわれの所を過ぎ去っていくように意識される。(三省堂 新明解国語辞典)

★時間…空間と共に、常に流れているもの。私がいつも「もっとあればいいのに」と思っているもの。目には見えないが人々にとても大切にされていて、何をするにしても必ず必要となる。(生徒作)

【実践例Ⅱ】1年生

わかりやすく伝えよう2（文章でクラスメートを紹介しよう）

1. 指導にあたって

1年生は、入学以来何度となく自己紹介をする機会があったが、他人を紹介するということはしてこなかった。附属学校という環境の中で、四クラス中三クラスが小学校からの進学者であるとはいえ、新たに一クラス分外部からの生徒も加わっている。入学後四ヶ月足らずの期間、一緒に学校生活を送ってきたクラスメートを改めて見つめ直し、お互いの理解を深めさせようという思いも込めた。

教科としてのねらいは、「わかりやすく伝えること」である。そのための手だてとして、まずは取材のための相互インタビューを取り入れた。

紹介する相手は座席の隣のクラスメート（異性）とした。最初は同性がよいといていた生徒達であったが、実際にインタビューが始まると和気藹々と楽しそうにしていた。（写真）

インタビューの項目については、例を示したがそれ以外にも入学以降これまでであった出来事などについて取り上げることもアドバイスした。

書かせるための準備として、ワークシートを用意した。表はインタビューのための取材メモ用紙、裏は紹介文用にした。紹介文は、出だしと締めくくりを統一し、前半はインタビューをしてわかったことを中心にし、後半はそれらをふまえた相手に対する印象や感想というように分けて書かせるようにした。

書き上げた紹介文は、まずは紹介された本人に読んでもらうことにし、本人からのコメントを添えてもらった。

そろった段階で、クラス全員の前で紹介文だけを披露し、誰を紹介した文かを当てさせた。

2. 目標

- ・取材（インタビュー）で得た情報を活用して、クラスメートを紹介する文章を書くことができる。
- ・文章で表現された人物の紹介文を聞いて、誰であるかを想像することができる。

3. 指導計画（全3時間）

- ・取材（インタビュー）をして、相手に関する情報を得る。……………1時限
- ・取材（インタビュー）で得られた情報を元に、相手の紹介文を作成する。……………1時限
- ・紹介文を聞き、誰の紹介文であるかを想像することができる。……………1時限

生徒の作品例

クラスメートのHさんを紹介します。

I小学校という、雰囲気が明るく真面目な学校の出身です。趣味はテニスで、自分ではあまり上手くないと言っていますが、三年目だそうです。好きな先生は音楽のS先生です。優しいところが好きらしいです。好きな科目は音楽と体育です。一緒にいて楽しい人になりたいというすてきな目標を持っています。社会の時間に作った歴史の新聞をわかりやすく説明するときのHさんのアイデアは、テーマに合っていておもしろい発想でした。

これまであまり話しかけたことはなかったのですが、Hさんはきつととても明るい心を持っているはずです。それに、音楽や運動が大好きだということが人間としてすてきななあと思います。考え方や話す

ことに楽しみがあるので、僕はHさんが、一緒にいて楽しい人になる日が近い気がします。

このように、Hさんは楽しいことが大好きな人です。

クラスメートのY君を紹介します。

Y君は運動会のリレー選手でした。リレー選手と言うことは足が速い！みんなからも「足が速い」と言われています。Y君は自分では「一生懸命になれない」と言っていますが、ちゃんとリレーは燃えていました。陸上部でも一年の中で一番足が速いそうです。生年月日は十月二日の天秤座です。血液型はO型で、趣味はゲーム。好きなバラエティーは「レッドカーペット」です。

陸上部の一年生で一番足が速いとは思いませんでした。Y君はスポーツに対して一生懸命だということがわかりました。見た目は「だるい」とか言っていますが、ちゃんと頑張っています。

このようにY君は少しシャイで一生懸命な人です。

クラスメートのH君を紹介します。

附属小学校出身で、1995年6月10日生まれのA型。趣味・マイブームは最近男子の間で流行っているぞうきんやタオルをパシッとすることで、部活はテニス部。好きな本は「リアル鬼ごっこ」などで、有名な山田悠介さんの書いた本。好きなマンガは「銀魂」などの少年ジャンプ系。将来の夢を聞くと、この学校を卒業すること、早く大人になることらしいです。自分の性格は「優しくていい性格」。自分で言うのはどうかと思うけど、本当にそうだと私は思います。合唱コンクールの練習では、最初の練習の日から最後まで残って練習していました。

印象はいつも明るくて元気な人、です。合唱コンクールでは最後まで残っていて偉い人だなあと思いました。

このようにH君は明るくて真面目な人です。

クラスメートのN君を紹介します。

まず、好きな飲み物を聞いた時、「メロンソーダ」と答えました。しゅわしゅわの炭酸水で、甘いメロンソーダを好むなんて意外でした。ファミリーレストランのドリンクバーで、大量に飲んでメロンソーダが出なくなったということがあったそうです。次に、好きな動物が「カエル」だそうです。前にN君がおばあちゃんの家に行った時、カエルがたくさんいて、おもしろがってカエルを捕まえて、ペットボトルに入れて遊んでいたそうで、それで興味を持ったそうです。最後に生まれてから一番やばい忘れ物は？と尋ねると、「附属中の受験票」と答えました。ビックリです。

イメージから男らしくたくましそうだったけど、案外おっちょこちょいで子供っぽいなと思いました。

このようにN君は見た目よりおっちょこちょいで子供っぽい人です。

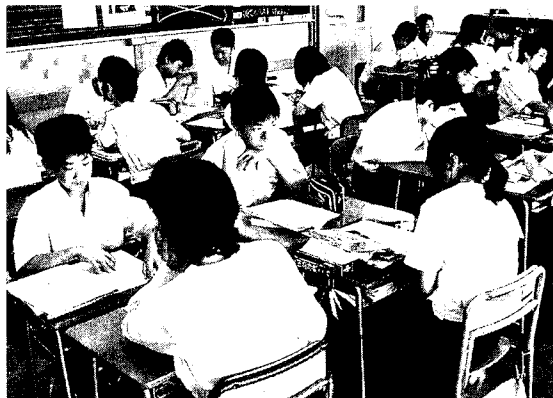
クラスメートのM君を紹介します。

附属小学校出身で、誕生日は9月18日、血液型はB型です。性格は子供心あふれていて、とても得する性格だと思います。彼は陸上部に所属していて、走り幅跳びが得意で、4メートルも飛べるそうです。彼にはもう一つ特技があって、それは暗算です。そろばんを2年生の時からやっていて、得意になったそうです。

M君の第一印象も「子供らしい」だったので、インタビューしてみて「印象と合っている」と思いまし

た。でも、特技は意外なものが得意で驚きました。

このようにM君は子供らしさと大人っぽさが半々な人です。



インタビューの様子

考 察

「言葉の意味」の活動は、言葉選びにかなり時間がかかった。手元の辞書のページを手当たり次第に開いている姿が見うけられたが、特に抽象的な言葉を選ぶのに苦労していた。

自分の体験などに結びつけて書かせるというパターンは理解しやすかったようで、言葉の種類に関係なく、いろいろな体験と結びつけて書くことができた。その体験も個人に特有のものではなく、中学1年生ならばだれでも共有できるというようなものが多く、伝えられる側も理解しやすかったと思われる。

書く活動としてだけでなく、言葉の学習としての活用することもできそうである。

「クラスメートの紹介」は、取材（インタビュー）という活動を取り入れた。座席が隣どうしの男女をペアにしてインタビューをさせたが、相互理解を深めるということは、心を「伝え合う」ことにもつながっていくものと思われた。お互いに「初めて知った」ということも多かったようで、クラスメートとはいいながらあまり知らなかった相手の一面を知ることができ、初めは異性ということに抵抗を示していた生徒達であったが、「一緒にいて楽しい人になる日が近い気がします。」というような言葉も出てきた。

インタビューで得られた情報と、それらを通した相手に対する印象や感想を分けて書かせたが、「事実」と「意見」や「感想」を区別して書くということも、このように実際に自分が取材して得た情報と、それに対する印象や感想というように区別させると、それほど迷うこともなく、自然に書き分けることができたように思われた。

「わかりやすく伝える」ための方法として、①「身近な体験と結びつけて伝えること」②「事実（取材で得られた）を伝えること」を取り入れてみたわけであるが、①の方法は、特に中学1年生という時期にぴったりの活動だったように思われる。学年が上がるにつれて、抽象的な思考力が高まっていく中で、他学年だとやや幼稚な感じで受け止める生徒も増えるであろう。

②に関しては、最初に提示したいくつかの質問項目以外のものを考えて質問する生徒もいて、いくつもの項目に関する事実によってその人物が表現されることになった。公表されるときに、一つ一つの事実が積み重なっていくと、事実の部分だけでそれが誰であるかが次第に明らかになり、生徒達も伝えるときの事実の大切さを実感できたのではないかと思われる。

参考文献

『力をつく作文学習50のアイデア』教育文化研究会編 三省堂

ワークシート

わかりやすく説明しよう

1年組 番 ()

☆Ⅱ クラスメイトを紹介しよう。

・みなさんは、中学校に入學してからこれまで、自己紹介をする機会は何度もあったと思いますが、他の人を紹介する機会はありませんかと思えます。そこで今回は、クラスメイトのことを、その人を知らない人にわかりやすく紹介する文章を書いてみましょう。条件は、

①校長先生に紹介する。(言葉遣いにも注意して) ②隣の人を紹介する。③欠点などは取り上げない。
④取材をして情報を集める。⑤書いた文章を本人に見せてコメントをもらう。です。

☆取材内容 (例)

- ・名前
- ・出身小学校
- ・生年月日
- ・血液型
- ・趣味
- ・特技
- ・食べ物の好き嫌い
- ・好きな○○
- ・自分の性格
- ・自分が誰に似ていると思うか
- など。

☆取材メモ

わかりやすく説明しよう

1年組 番 ()

Ⅱクラスメイトを紹介しよう。

クラスメイトの さん・君を紹介します。

等 事 来 出 材 取 等 想 感 像 印

このように、 さん・君は

な人です。

☆本人からのコメント

【実践例Ⅲ】異校種間交流授業

附属中学校2年3組 & 附属高等学校2年B組 国語科 学習指導案

平成19年11月30日(金)

第5限 2-3, 2-4教室

指導者 石田 明美(附属中)

島村潤一郎(附属高)

1. 単元(題材)名 本の世界を広げよう(読書郵便)

2. 目標

(中学校)

・印象に残った本を高校生に紹介したり、アドバイスをもらったりという交流を通して、読書の世界を広げたり、作品を読むことの楽しさを味わったりすることができる。

(高等学校)

・中学生の読書郵便に返事を書いたり、お薦めの本を紹介したりという交流を通して、自分の読書生活を振り返ったり、読書の世界を広げたりすることができる。

(共通)

・伝え合うということを意識して、異校種の先輩(後輩)に自分の言葉で話したり、相手の思いを尊重しながら聞いたりすることができる。

3. 評価の観点及び規準

- ① 関心・意欲・態度 自分の読書生活について振り返り、読書の世界を広げようとしている。
- ② 話す・聞く能力 紹介する本を分かりやすく説明したり、読書についての情報を的確に聞き取ったりしている。
- ③ 書く能力 読書郵便(読書郵便への返事)を工夫して書いている。

4. 指導にあたって

【単元(教材)観】

読書の世界は読者それぞれに多様である。生徒もそれぞれの読書生活を送っていて、その内実はさまざまであろう。そういった読書生活を記録したり感想文を書いたりすることで、自分というものを見つめるきっかけとさせたい。また、読んだ内容や感じたこと・考えたことを言葉にして確かめ、それらを異校種の高校生(中学生)という相手に向けて整理し、読書郵便(読書郵便の返事)という形にしていく。そして、完成した読書郵便(読書郵便の返事)をもとに、お互いに読書について語り合うという活動を通して、今後の読書生活の見通しを持ったり、読書の世界が広がったりすることを期待している。

【生徒観】

読書に関しては1年時より、課題として取り組ませている。ただ、かなり個人差があり、日々読書に親しんでいる生徒から全く読んでいない生徒までさまざまである。今回、読書を通して高校生と交流授業を行うということで、その準備段階の「読書郵便」を書くという活動には、どの生徒も意欲的に取り組んでいた。今年になって、中学1年生との異学年交流授業を一度経験しているが、3学年離れた高校生が相手なので、かなり緊張しながらもあこがれの先輩との交流を楽しみにしている様子である。

【指導観】

本を読んで感じたことや考えたことを自分だけのために書き留めるのではなく、他の人と交流し、分かりやすく伝えるために、内容の選択や表現のしかたを工夫することを学ばせたい。

交流授業では、6～8人(中学生3～4人、高校生3～4人)の異校種混合のグループ活動が中心となる。ふだん接することのない初対面の高校生(中学生)を相手に、いかに積極的に自己表現したり、他者

理解しようとするかというコミュニケーション力が問われる。お互いが打ち解けて語り合えるように支援していきたい。また、中2生と高2生という年齢差から出てくるさまざまな読書生活に触れることで、自分自身の読書生活を振り返るきっかけとさせたい。

5. 指導計画及び評価計画（総時数4時限） 評価計画
- 第一次 本を選び、読書郵便（読書郵便の返事）を書く。 （3時間） ①③
- 第二次 読書郵便（読書郵便の返事）をもとに、読書について語り合う。【本時】（1時間） ①②

6. 本時の学習（第二次）

(1) 題材名 読書郵便（読書郵便の返事）をもとに、読書について語り合おう。

(2) ねらい

- ・高校生（中学生）との交流を通して、読書について考えることができる。
- ・紹介する本を分かりやすく説明したり、相手の話を的確に聞き取ったりできる。

(3) 評価の観点及び規準

- ① 自分の読書生活について振り返り、読書の世界を広げようとしている。
- ② 紹介する本を分かりやすく説明したり、読書についての情報を的確に聞き取っている。

(4) 育成に関する学習活動について

本時は6～8人の異校種間同士のグループ活動が中心となる。ふだん接することのない初対面の高校生（中学生）と意見交流する中で、積極的に自己表現したり、他者理解しようとするコミュニケーション力を育成したい。また、中2生と高2生という年齢差から出てくる様々な読書生活に触れることで、今後の読書への意欲を喚起したい。

(5) 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援及び留意点	評価と方法	時間
1. 本時の目標や活動について知る。	・教師が簡単に自己紹介をし、中学・高校時代の読書生活を語ったり、ブックトークを行ったりする。 ・和やかな雰囲気を作るよう努力する。		10
2. グループごとに自己紹介をし合う。	・じゃんけんをして自己紹介の順番を決めさせたり、お互いの好きなものを言い合ったりなどの活動をさせて、アイス・ブレイキングをはかる。		5
3. グループごとに、読書郵便（読書郵便の返事）をもとに、意見交換をする。 (1) 中学生が自分の取り上げた本について、説明したり、読書についての質問をしたりする。 (2) 高校生が中学生の質問に答えたり、これからの読書生活についてアドバイスしたりする。 (3) 中学生が高校生に質問したり、高校生が話題提供したりする。	・時間いっぱい活発な意見交換ができるように、1人3分話すという目標を持たせ、時間の目安を提示する。 ・発表が終わったら拍手するなど温かい雰囲気作りを心がけさせる。 ・中学生に司会を担当させ、時間配分を考えながら進行できるよう机間支援していく。 ・机間支援しながら、話し合いが滞っているグループに話題を提供したり、話し合いと一緒に参加したりする。	<p>①②観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に話したり聞こうとしたりしているか。 ・分かりやすく説明したり、的確に聞き取ったりしているか。 	25
4. 全体の場で、高校生2名が本の紹介（ブックトーク）をする。	・座席を前に向けさせ、聞きやすいように配慮する。		8
5. 本時の授業を振り返って、中学生が感想を発表する。	・数名指名し、今後の読書への意欲づけとなるようにしたい。		2

【資料1】中学生から高校生への「読書郵便」

読書郵便

書名	神秘の島
著者	ジュール・ヴェルヌ

印象に残ったこと・気に入らぬ所や表現
好きな登場人物
おもしろいところ・読んでくれた仲間や備った
きに助けようとして懸命命を他人が力を合
せてくれた人の少年きなんの助けを
いふ場面が一番好きです。この話の登場人物
の中で「ハーバート」という人が強いです
もてあり、何でも二つから立ち向かてい
く少年が好きです。

書き出し
「おぼえていろのか?」
あらすじ
嵐のなか四人の男とひとりの少年を乗せた
気球が無人数に漂着する。無人島であるけ
すのタホル島に遭難者がいることを救助
へ向かう。その数は人間の心を忘れに思ふた
男たち危機におちいふたに救いの手
ささしりてくられた神秘の力。
ひそかに五人を見守りてくれている謎の人物
ついにあつた。

二年二組 番

部活動に興味ある分野
小学校で習得したスキルは多くはバ
スケでバスケットをしています。
スキーは何でも好きです。
理科は五教科のうち好きです。

読書生活を振り返る
今まで「グレイン・サイン」「光と
闇の嵐の少年」「ハーバート」
タホル島に漂着する無人島物語
「南極星見大伝」など他の
いふを讀んだことがあつます。
女性の冒険の物語も好きです
推理小説の「シャーロック・ホーム
ズ」や「ABC探偵事件」なども好
みます。
おぼえていろのか?」
あらすじ

高校生のみなさんへの質問
Q. どういう本をよく読みますか?
A. 感想文を書くときのネタ
は?
Q. 本をよく読みたいですか?
A. 本をよく読みたいです。

神秘の島

2年3組 番

この話は四人の男と一人の少年が無人島で
くりひろげる冒険のお話です。第一部では
いろいろな所を探険して地図を作ったり、自
分達の手で作った標葉や鉄などを利用して島
を開拓していきます。また、第二部では無人
島であつたはずの島に、遭難者がいることを
知り救助に向かいます。そこで出会った一人
の男は人里を忘れた獣のような男でした。
第三部では、ひそかに五人を見守りてくれた
謎の人物について出会うという流れになつて

と、この話のほととも無理でした。でも、友達や
妹と協力し合つて分担したりすることで進め
具合もうちがいにすごく心強かつたです。気持ち
を一つにしてがんばるが一つのことに全力を注
ぐことで自分自身の気持ちの構え、進行の速
度が変わつていくんだなというところを感じ
ました。
その後、島全体は発展していきつてですが彼
うを優しく見守りてくれたネモ船長の死、そ
して山の噴火や地震などの自然災害が起こる

います。初めは無人島ということを知り、
うれしたういのか。いつたいどうやって何
もないところで生きていくことができるのだら
うかととまどい混乱してしまつたが、行方不
明だった男（技師のサイラス・スミス）と再
会し、その男を中心に一致団結し無人島に立
ち向かつていきます。私は小学生の頃、火を
おこしたり自分で食料を探し料理したことが
ありませんが、探したり火をおこしたりするの
にも時間がかすくかかつたし一人で全てやる

ことを知り脱出をこころみる。死にそうだと
思つたそのとき船が通りかかり救助されま
す。私は最後、無事に島を脱出させ新しい人生を
歩んでいくのか、それとも死んでしまふのか
と不安でドキドキしていましたが無事救助さ
れ元の道を歩むという結果でホッとしました
自分達の手で道具を使わず生活したりその他
様々な体験をたくさんした彼らなら、強い心
を考へていくことでしよう。

【資料2】高校生から中学生への「読書郵便」

で	す	お	わ	う	そ	い	く	し	で	本	や	彼	す	の	少	テ	受	界	み	々	モ	物	や	こ	の	本	
あ	ま	き	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
く	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	
ま	ま	ま	れ	と	く	く	考	し	あ	人	世	日	で	の	す	シ	け	の	の	な	エ	読	や	こ	の	本	

「神秋の鳥」 「を読んだ」
 本の著者 辺見庸 出版社
 さんに「その全書」をよく読めたい。

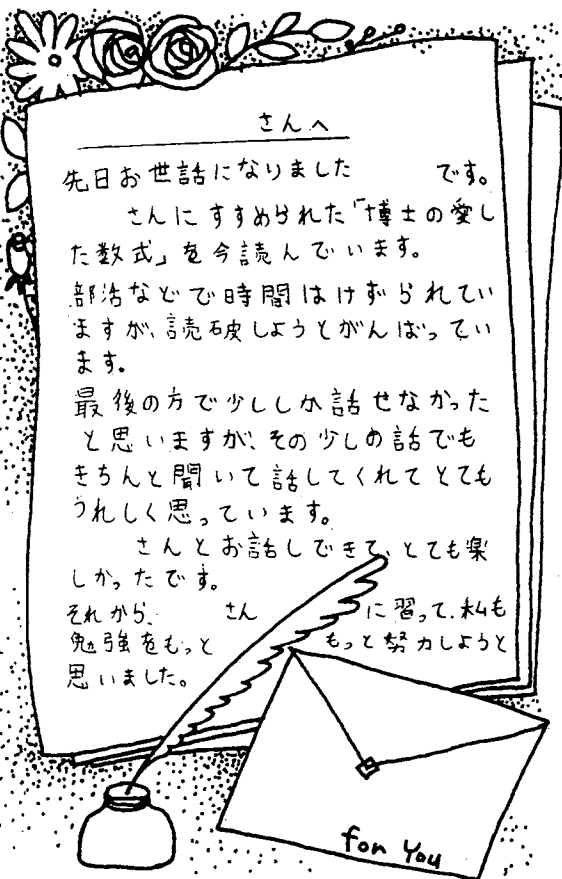
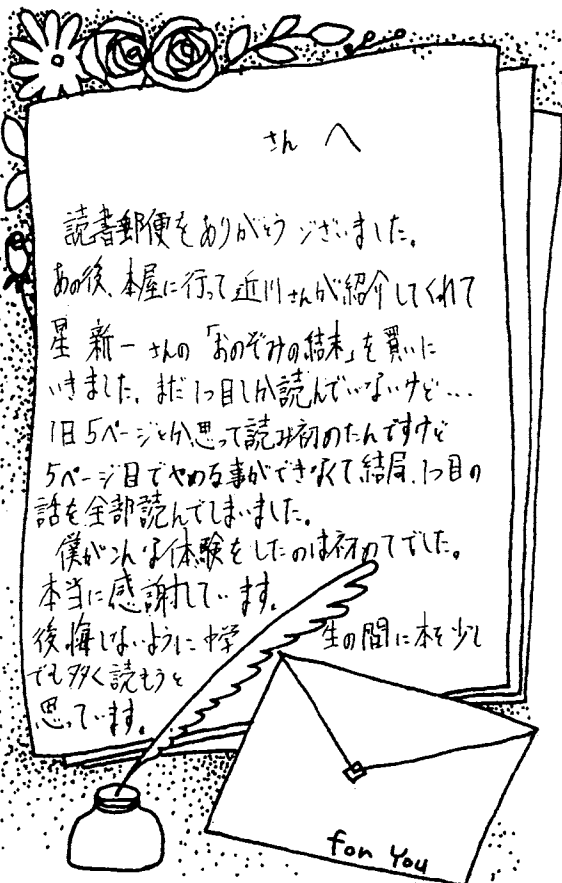
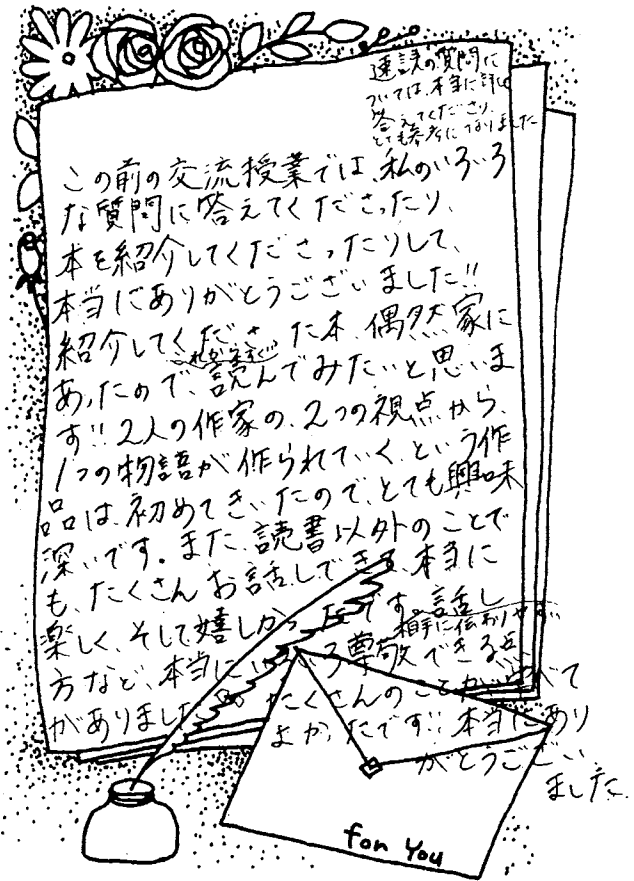
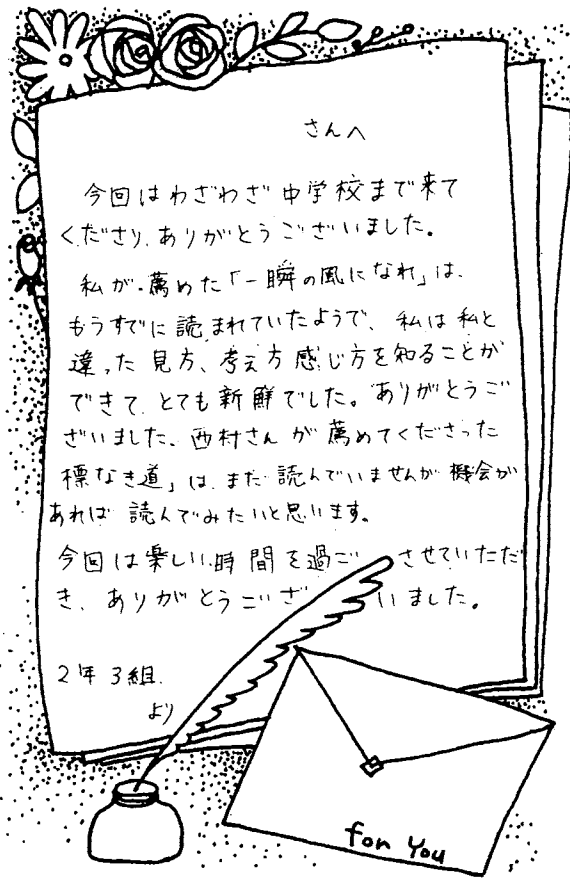
読書郵便

ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		
ん	す	入	す	い	と	訓	か	た	私	の	あ	す	の	品	一	音	あ	音	と	い	か	時	ん		

「宿命」 「を読んだ」
 本の著者 江國香織 出版社 辻仁成
 さんに「冷静と情熱のあいだ」をよく読めたい。

読書郵便

【資料3】中学生から高校生へのお礼の手紙



【交流授業を終えて】

(1) 高校生との交流授業の後のアンケートの結果

	はい	いいえ
1. 楽しかったですか。	36 人	4 人
2. 高校生から何か学びましたか。	40 人	0 人
3. 高校生と交流授業をまたやりたいですか。	30 人	10 人

(2) 生徒の感想より

- ・高校生は原稿を見ないでスラスラと本を紹介したり、質問にはすぐ答えてくれたりして、とにかくすごかったです。私の発表は一生懸命聞いてくれたし、とても優しく接してくれてうれしかったです。
- ・話し方がとても上手だったので見習いたいと思いました。聴き方は静かに聞いてくれて良かったです。これからもっと本を読みたいと思いました。
- ・僕のパートナーはしっかりと話を聞いてくれたし、話すたびにうなずいてくれました。このような接し方をしてもらえると、話しやすくなりました。授業でも、発言している人の意見をうなずいたりして聞けば良いと思いました。
- ・自分が本をあまり読まないというところから話をしていたのだけれど、高校生の人達は「高校に入ってから本の大切さを知った」とか「中学生の時にもっと本を読めばよかった」と言っていたから、自分も後悔しないために少しずつ本を読んでいこうと思いました。
- ・読書についての意見を交換できて良かったなと思います。高校生の話し方は、中学生と比べてみて具体的にうまく言えませんが、聞きやすくて上手な発表でした。それに、内容も読んでみたいな…と聞いている人に思わせるようなものでした。
- ・私の読んだ「一瞬の風になれ」は、先輩はもう読まれていたようで、私とは違う見方、感じ方、考え方を教えていただき、新鮮でした。先輩方の話し方はまとまっていて、ブックトークの本の紹介の仕方では、4、5分の間でその本のおもしろさが語られ、おもしろそう、読んでみたいという思いになりました。私もそのように話を進められるようになりたいです。
- ・高校生のみなさんはいろんな意味ですばらしいと思いました。特にAさんは黒板に書きながら、あんなにわかりやすい説明で感動しました。聴き方も相手の目を見て相づちをとりながらしっかりと聞いてくれました。また、質問にも十分すぎるほど答えてくださいました。読書について「本を読んでおいたらと思うことはありますか。またどんな本ですか」と質問したところ、「芥川龍之介とか文学作品を読んでおけばよかった」とおっしゃっていました。とにかくいろいろと勉強になりました。

(3) まとめ

アンケートで楽しくなかったと答えた生徒の理由は、緊張しすぎたからというものだった。授業の最初に簡単なアイスブレイキングをしたものの、初対面の高校生と対等に話をするのはやはり難しいことなのかもしれない。しかし、話し合いをリードしてくれたり、その場を盛り上げてくれた高校生の落ち着いた態度に、あこがれを抱いた生徒も少なくない。特に、高校生のコミュニケーション力に目を見張り、話し方や説明のしかた、話し手が話しやすい聴き方など学んだことは多いようである。また、読書に関しても刺激を受け、高校生に勧められた本を早速読む生徒もおり、教師が勧める以上に効果があったように思われる。

今回の授業では、中学生が高校生から受けた影響は予想以上に大きかったが、高校生にはどんな影響や学びがあったのかということについても検証していく必要がある。